インフォメーション

問い合せ・申込み：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010 ／ FAX 022-268-4042　Mail sendai@sapo-sen.jp

サポセン × ふりすく仙台 クリスマスパーティー

日　時：12月7日（土）19：00～21：00（18：30開場）
会　場：仙台市市民活動サポートセンター　地下1階　市民活動シアター
参加費：1,000円、ソフトドリンクは500円（飲み放題）
対　象：20代～30代の人
申込み：当日参加可能ですが、人数把握のため事前申込みへのご協力をお願いいたします。
同じまちで活動する若い世代と、楽しくお酒を飲みながら交流しませんか?参加は一人でも友達と一緒でもOK!今回は仙台で外国人と英語・日本語を互いに教え合う活動をしている団体「ふりすく仙台」と共催のクリスマスパーティーです。
DJによる音楽やパフォーマーによるショーなど、お楽しみ盛りだくさんでお待ちしています!
※アルコールを提供するため、年齢確認のできるものを持参ください。※車で来館の場合の飲酒は、ご遠慮ください。

NPO法人green birdと街のおそうじ ちょっと。ボランティア

日　時：12月22日（日）10:00～12:00
会　場：仙台市市民活動サポートセンター 1階　マチノワひろば
内　容：地域や社会のために何かしたいけれど、「何ができるかわからない」「何から始めて良いかわからない」。そんな人にオススメです。NPO法人green bird仙台チームと一緒に、一番町エリアの清掃を体験してみませんか。
参加費：無料
定　員：10名程度 先着順（12月6日から受付開始）
対　象：どなたでも

年末年始の貸室申込予約・受付開始日について

仙台市市民活動サポートセンターでは、年末年始の12月29日（日）から1月3日（金）まで休館日となっております。年末年始期間中に係わる貸室申込手続き期限や申込受付開始日が変わりますのでご留意ください。詳しくは、サポセンホームページをご覧ください。

- ●予約の手続き期限：12月23日（月）から28日（土）までの期間の予約は、1月10日（金）が予約の手続き期限となります。
- ●受付開始日：年始休館日明けの1月4日（土）は、年末年始休館日期間に該当する貸室申込みの受付開始日となります。

申込受付開始日				
セミナーホール シアター全日・区分	6/28 使用分	年末年始休館	6/29～7/4 使用分	7/5 使用分
研修室 シアター時間貸	3/28 使用分		3/29～4/4 使用分	4/5 使用分
申込受付開始日	12/28		1/4	1/5

※受付開始日の貸室申込予約は、午後2時以降となります。

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください

ボランティア活動をしたい／団体を立ち上げたい／組織運営の悩みを解決したい／他の団体や他のセクターと連携したい／自分のスキルを地域や社会に役立てたい…

今月の休館日 12月11日（水）、25日（水）
年末年始の休館日 12月29日（日）～1月3日（金）

開館時間　月曜日～土曜日 9:00-22:00
　　日曜日・祝日 9:00-18:00
休館日　毎月第2・第4水曜日（祝日の場合は翌日木曜日）年末年始

市民ライターが、仙台の市民活動団体やワクワクビトを取材しています！
▶市民ライター
http://blog.canpan.info/fukkou/category_23/1

▶「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。
▶ぱれっとに関するご意見をお寄せください。

［ぱれっと読者アンケート］サポセンホームページからアクセスいただくか、携帯電話等で2次元バーコードを読み取ってご利用ください。

〒980-0811　仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL 022-212-3010　FAX 022-268-4042
地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ／地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分
［HP］https://www.sapo-sen.jp［Blog］http://blog.canpan.info/fukkou/［Twitter］@SCSC4CA

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。［指定管理期間2015年4月1日～2020年3月31日］

発行　仙台市市民活動サポートセンター
発行日　2019年12月1日
編集　特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター
デザイン　PEACE Inc.
編集人　太田貴　菅野祥子　松村翔子　水原のぞみ　小林正夫
発行部数　3000部
配布場所　市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

ぱれっと12

サポセンは2019年6月に開館20周年を迎えました! 祝

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと　2019 No.244

“ぱれっと”には、仙台市市民活動サポートセンター（サポセン）にいろいろな人が集まり、それぞれの色（個性）が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

仙台をワクワクさせる人物をご紹介します

今月のワクワクビト

すまいるわんだーらんど
伊藤（いとう） 健一郎（けんいちろう）さん（23）

幼稚園の先生、お笑いスターとなる

オレンジ色のゾウのマスクを被り、奇抜な衣装で登場する伊藤健一郎さんは、童謡やしりとりをアレンジしたフリップ芸で、子どもたちに「笑い」「驚き」「学び」を提供しています。本職は幼稚園教諭です。お笑い好きで意気投合した保育士の友人と「すまいるわんだーらんど」というコンビを組んでいます。自らを「保育パフォーマー」と称して、依頼があった保育園や児童館などに出かけ、子どもたちを楽しませています。
披露したネタに、「わかんなーい」「なにそれー」と、子どもたちが突っ込みを入れてきた時は腕の見せどころ。即興で対話しながら、子どもたちをワンダーランドへ誘います。舞台から降りた後も、子どもたちに囲まれる「愛すべきお兄さん」。地元仙台で2019年4月から始まった活動は、回を重ねるごとにファンを増やしています。
伊藤さんは、「こんな先生、他にはいないって言われる自慢の先生になりたい」と、目標を掲げます。これからも、子どもたちの笑顔を求めて舞台に立ち続けます。

取材・文　水原のぞみ

特集　おすそわけから生まれる共助の輪 食品をムダなく活用する「フードドライブ」

突撃レポート！　壊れた本の治し方を教えます

すまいるわんだーらんど

HP https://sxwxlsendai.wixsite.com/japan1　Instagram @sxwxl_sendai
仙台市在住の男性現役保育士・幼稚園教諭2人による、子どもを対象にした保育パフォーマンスコンビです。伊藤さんが扮するのはゾウの「けんぞうくん」。伊藤さんはマスクを被る理由を、「強面なので、お客さんには親しみやすく、メンバーには突っ込みやすく感じてもらうため」と明かします。現在、子どものみならず、幅広い世代からの出演依頼があります。活動開始から約半年で、イベント出演回数が30回を越えました。出演依頼はHPから。

特集

地域の課題を解決するために、様々な立場の人たちがコラボレーションする取り組みをご紹介します

おすそわけから生まれる共助の輪 食品をムダなく活用する「フードドライブ」

日本では、貧困などにより十分に食べ物を得られない人たちがいる一方で、売れ残りや食べ残し、期限切れ食品など、本来は食べることができたはずの食品が大量に廃棄されています。それは、私たちの家庭ごみの中にも多く含まれています。この「食品ロス」を市民に身近な問題として考え、課題解決に参加してもらおうと、行政とNPOが取り組む活動を紹介します。

食べ物に困らない社会にしたい

NPO法人 ふうどばんく東北 AGAIN（あがいん）事務局
小椋亘（おぐらわたる）さん

×

家庭ごみを減らしたい

仙台市環境局 家庭ごみ減量課
庄子学（しょうじまなぶ）さん

家庭の「もったいない」を集める

フードバンクは、企業や市民から食品の寄贈を受付け、それを福祉施設や一人暮らしの高齢者、障がい者、ホームレス状態にある人など生活に困窮する人たちに提供するしくみです。仙台市では、2019年10月に仙台市環境局家庭ごみ減量課（以下、家庭ごみ減量課）がNPO法人ふうどばんく東北AGAIN（以下、AGAIN）と協働で、フードドライブを実施しました。フードドライブとは、まだ食べられるにも関わらず破棄される食品や家庭で余っている食品を集めフードバンクに寄付する活動です。

食べ物の回収から必要な人に届けるまでの工程のうち、家庭ごみ減量課は、回収場所との調整、食品の回収、集まった食品の量や品目のデータ化、賞味期限の確認を実施。地域のお祭りや市内の食品スーパーイオン5店舗などに回収用のフードボックスを設置して食品を回収しました。集めた食品は、賞味期限が1ヵ月以上ある常温保存可能な缶詰やインスタント麺、レトルト食品などです。家庭ごみ減量課の庄子学さんは、「ごみを処理するために多くの税金が使われています。ごみ減量は市民の負担を減らすことにもつながります」と話します。市に一時保管されたこれらの食品を、必要な人たちにつなぐのはAGAINです。東北地方を中心にフードバンク事業を展開しています。日頃の地域活動で把握している、「やわらかいものが助かる」「赤ちゃんのミルクが必要」など提供先のニーズに合わせ食品を仕分し、適正に分配しました。

協働によって広がったネットワーク

環境や貧困問題解決への取り組みは、2015年の国連サミットで採択された、2030年までの持続可能な開発のための世界的目標（SDGs）に掲げられ、社会的関心が高まりました。また、同年に生活困窮者自立支援制度が制定され、生活困窮者が困窮状態から早期に脱却することを支援する取り組みが全国の自治体で活発化。AGAINの小椋亘さんは、「6人に1人が相対的貧困という今の日本が抱える深刻な社会課題を背景に、子ども食堂が全国に広がるなど、生活困窮者へのサポートの必要性が世間に認知されました。活動の輪は急激に広がりました」と振り返ります。

家庭ごみ減量課とAGAINの協働のきっかけは、2017年。市主催でごみ減量を呼びかけた催事「エコフェスタ」で、家庭ごみ減量課がフードボックスを設置し食品を回収したことでした。回収した食品の行き先をAGAINに相談したことから協働がスタート。これまで3回実施し、区役所、環境事業所、民間企業など協力者も増えていきました。2019年のフードドライブでは1,233kg、約2,397点もの食品を回収。庄子さんは「民間企業やNPOの協力は非常に心強いもので

した」と、手応えを感じています。小椋さんも「食品回収の機会や場が広がったことで、事務所に直接食品を持ち込む人が増えました」と変化を話します。また、回収や管理工程の負担も軽減され、生活困窮者への配達に専念することができました。

フードドライブの成果

フードドライブの後、庄子さんには、食品を受け取った市民からの「ありがとう」の声が届きました。また、「誰かのために」と寄付する行為が、結果として市民一人ひとりの、消費やごみ減量への意識向上にもつながりました。小椋さんは、「食品ロスの一方で食べることに困っている人がいるという現状をもっと多くの人に知ってもらいたい」と意気込みます。協働によるフードドライブで、食品ロス削減に参加する機会と、助け合いの輪を広げていきます。（取材・文　宮﨑真央）

● NPO法人ふうどばんく東北 AGAIN
〒981-3341　宮城県富谷市成田8丁目1－1
TEL 022-779-7150 ／ FAX 022-774-1410
● 仙台市環境局廃棄物事業部家庭ごみ減量課 減量推進係
〒980-0802　仙台市青葉区二日町6番12号二日町第二仮庁舎（MSビル二日町）3階
TEL 022-214-8229 ／ FAX 022-214-8277

活動に役立つ書籍をご紹介します

お役立ち本

被災ママに学ぶちいさな防災のアイディア40

東日本大震災を被災したママ・イラストレーターが3.11から続けている「1日1防災」
著者：アベナオミ　発行所：株式会社学研プラス

東日本大震災で被災した宮城県出身のイラストレーター、アベナオミさんが、母親として奮闘した当時の状況を語っています。可愛い漫画やイラストが多く、活字が苦手な人でも読めてしまう一冊です。震災を経験した著者が防災士として実践する「1日1防災」を普段の災害対策に役立ててみませんか。

活動を始める一歩を応援します

コトハジメ

はがき1枚からできる 国際貢献をしてみませんか？

古いはがき、喪中で不要になってしまった年賀はがき、書き損じはがきはありませんか？未投函の郵便はがきを送って、バングラデシュでの児童労働削減などに役立てることができます。封筒などに入れて、南アジアを支援するシャプラニールまで送付してください。

●NPO法人シャプラニール=市民による海外協力の会
〒169-8611東京都新宿区西早稲田2-3-1早稲田奉仕園
シャプラニール「あなたのはがき、だれかのために。キャンペーン」係

▲家事使用人として働く少女たちに、読み書きや性教育など様々な学びの支援をしています。

サポセンスタッフ 松田照子の突撃レポート！

取材団体名 / 本の診療所準備室

壊れた本の 治し方を教えます

連絡先　代表 ながさわゆうこ
連絡先：090-1067-5304

▲父親から譲り受けた本の修理に訪れた小学5年生（右）、と真剣な眼差しで本と向き合う、ながさわさん（左）

繰り返し読み返したお気に入りの本、使い慣れた辞書、大切な人から譲り受けた古い書物など、壊れているけれど大切な本があなたの手元にありませんか？

本の診療所準備室は、せんだい環境学習館たまきさんサロンで、2019年7月より活動を始めました。自分の手で本の修理をしたいという人のために、不定期で本の修理の相談室を開いています。本を患者に見立てて診察し、カルテには、タイトル、出版年、出版社、壊れ具合を記入。修理に必要な材料を教え、道具を貸し出し、直し方を教えます。「自分自身で本を修理できる楽しさを多くの人に知ってもらいたい」と、代表のながさわゆうこさんは話します。

ながさわさんは、図書館蔵書の修理ボランティアとして約5年間、技術を磨いてきました。出版時の製本技術、人の手や年月の加わり具合などから本が壊れた理由を推理したり、問題点を改善して製本し直したりする作業工程に、次第に魅了されるようになりました。「思い入れがあって捨てられない、壊れてしまった本があるなら、ぜひ相談に来て欲しい」と、呼びかけます。

ページをめくる時のドキドキやワクワク、紙の質感やにおい、情報を五感で受けとることができるのは紙の本ならでは。修理したい大切な本をお持ちでしたら、一度相談してみてはいかがでしょうか。